

投資者の皆様へ

2024年8月5日



商号 SBIアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第311号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

8月5日の弊社ファンドの基準価額下落について

平素は弊社ファンドをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。
 以下のファンドの基準価額が8月5日に大きく下落しましたので、その要因等についてご報告申し上げます。

1. 基準価額及び騰落率(8月5日)

ファンド名称	基準価額	前営業日比	騰落率
SBI TOPIX100・インデックスファンド<DC年金>	21,755 円	▲3,114 円	▲12.5%
ソフトバンク&SBIグループ株式ファンド	20,143 円	▲1,977 円	▲8.9%
SBI日本・アジアフィンテック株式ファンド	15,840 円	▲1,888 円	▲10.6%
SBI日本高配当株式(分配)ファンド(年4回決算型)	9,468 円	▲1,244 円	▲11.6%
SBI・シェアーズ・日経225インデックスファンド	9,816 円	▲1,646 円	▲14.4%
SBI国内大小成長株ファンド(愛称:大小)	10,223 円	▲750 円	▲6.8%

2. 基準価額下落の主な要因

本レポートに記載のファンドに関する下落要因及び今後の見通しは以下の通りです。

国内株式市場は、7月31日の日本銀行の予想外の政策変更(無担保コール翌日物レートを0.25%へ引き上げ、長期国債の買い入れ減額)の余波と今後も金融引き締めが継続するとの懸念、2日の米国における弱い雇用統計発表による景気減速・後退懸念の高まりと一部の企業業績の下方修正、それを受けた株価下落などを受けて、軟調な展開が続いております。日経平均株価は、5日も前日比4,451円28銭安(同12.4%安)の31,458円42銭と大きく下落して取引を終了しました。TOPIXは前日比310.45安(▲12.23%)の2,227.15。※日中下落率として

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

は、1987年10月20日のニューヨーク市場のブラックマンデーを受けた下げ、日経平均▲14.9%、TOPIX▲14.62%以来の日中下落率となりました。

日本銀行は、30日～31日開催の金融政策決定会合で金融緩和政策を修正しました。さらに記者会見において植田総裁は追加利上げの可能性も示唆しました。これにより、2日には、ドル円が3月以来の円高ドル安水準(仲値149.52円)を付け、株価は急落しました。軟調な相場は続いておりまして、日経平均は1日に▲2.49%、2日に▲5.81%、TOPIXは1日に▲3.24%、2日に▲6.14%となっております。米ドル為替レートは、本日は、弱い米雇用統計発表などから米利下げ期待が高まり、仲値で見て1月以来の円高ドル安水準(仲値145.47円)を付けました。

2日の米国市場では、弱い雇用統計、企業業績を受け債券が買われ株価は急落しました(S&P500種指数は▲1.84%、ダウ工業株30種平均は▲1.51%、ナスダック総合指数は▲2.43%)。本日の日本市場では、先週に続きこのような米景気悪化を懸念した地合いのなか、2日に続き、TOPIX、日経平均など主要指数は全面安の展開となりました、東証33業種は全て下落、銀行や保険、証券などの金融セクターの下落率が大きくなりました。

株式市場ではリスク回避の売りが続き、終値ベースで見て、TOPIXは11日の高値から約24%安となっております。調整局面入りの状態です。国内株式市場の大幅下落に伴い、弊社の運用する日本株関連ファンドの組入れ銘柄の株価も影響を受けたことから、各ファンドの基準価額は下落しました。

今回の急落は、米国で景気の先行き懸念が強まったこと、日銀の利上げと金融引締め継続示唆により楽観的な相場見通しが転換したことなどが背景と見られます。今後の株式市場については、米欧中銀の金融緩和へ向けた動きの中、世界景気の減速・後退が懸念されておりますが、一方で将来的に景気や株価へポジティブな影響を与える利下げへの期待も見られます。一方、日本では日銀が金融引き締めを進めるなか、資金調達コストの上昇による悪影響が懸念されますが、景気回復への期待も見られます。当面は、内外動向を見ながら神経質な動きが予想されます。また、本日も銀行株が大きく下落しましたが、背景としては、米国経済統計の悪化や株安を受けた長期金利の低下により、銀行セクターが金利上昇の恩恵を受けるとの期待が後退したことなどが挙げられております。

このような環境下、当社では、引き続き適時適切な運用を行うべく尽力していく所存ですので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

以上

投資信託にかかるリスク

投資信託は、主に国内外の株式・公社債等値動きのある証券を投資対象としますので、組入株式の価格の下落や、組入株式の発行体の財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、その結果、大きく損失を被る場合があります。

また、投資信託は、それぞれの投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

※投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本保証はありません。

お客様に直接・間接にご負担いただく費用等

(お買付時に直接ご負担いただく費用)

- お買付手数料 上限 3.85% (税抜 3.5%)

(途中解約時に直接ご負担いただく費用)

- 信託財産留保額 上限 0.5%

(保有期間中にファンドが負担する費用(間接的にご負担いただく費用))

- 信託報酬 上限 2.585% (税抜 2.35%)

※成功報酬制を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限等を示すことができません。

また、上記上限を超える場合があります。

● その他の費用

監査費用、有価証券売買時にかかる売買手数料、信託事務の諸費用等が信託財産から差引かれます。その他の費用は、監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用等につきましては、一般的な投資信託を想定しています。費用の料率につきましては、SBIアセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、ご負担いただく費用における上限を記載しております。また、成功報酬を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限額を超える場合があります。投資信託にかかるリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、必ず該当投資信託の投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

投資信託ご購入の注意

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。